

# 御国が来ますように 「聞く耳のあるもの」

マルコ 4:20～25

もうすぐ1年が終わります。心はいつも良い状態で保たれているでしょうか。先日、杖について交差点を渡ろうとしている高齢の男性を見かけました。渡りかけたところを、車が先に曲がって通り過ぎました。高齢の男性はその行為に腹を立て、横断歩道の途中で止まり、杖を振り上げて去って行った車に怒っていました。その男性の行為により、車が通行できなくなっていました。横断歩道には歩行者優先のルールがあります。車の運転手はルールを破ったのですが、ではそれに応じたこの男性の行動はどうでしょうか。私達も日々の生活の中で、このように正しくない心になり、正しくないことを行ってしまうことがないでしょうか。

## ■ 良い地とは

道端・岩地・茨・良い地のたとえ話から、道端・岩地・茨は人の行為によってできてしまったもので、良い地は元々あったものと聞きました。神の願いは、全ての造られたものが愛し合って幸せに生きること。しかし、道端、岩地、茨ができてしまう苦しさや悲しい経験を赦されたのも神です。様々なことよって出来上がってしまった道端・岩地・茨のような心を、良い地に戻したいと願っておられます。

## ■ 秤

そのために必要なことが、正しい分別を持つことです。この分別をするのが秤です。『また彼らに言われた。「聞いていることに注意しなさい。あなたがたは、自分が量るその秤で自分にも量り与えられ、その上に増し加えられます。持っているものまで取り上げられてしまうからです。』(マルコ 4:24・25) ここに出てくる秤とは、旧約聖書の時代ですから、目盛りがあって細かい数字が出るわけではなく、重いか軽いかを分けるようなものでした。御言葉を聞くことの語源は「秤で量ること」で、旧約聖書に最初に出てくる箇所が出エジプト記にあります。エジプトの奴隷から解放され、エジプトを脱出したイスラエルの民は、「食べ物がない」、「水がない」など目の前の現状に不足を感じて嘆き、モーセに不満をぶつけていました。救い出された恵みを忘れ、不満を持つ民に、それでも神様は食べ物も水も与え続けられました。「イスラエルの子らはこれを見て、「これは何だろう」と言い合った。それが何なのかを知らなかったからであった。モーセは彼らに言った。「これは【主】があなたがたに食物として下さったパンだ。【主】が命じられたことはこうだ。『自分の食べる分にに応じて、一人当たり一オメルずつ、それを集めよ。自分の天幕にいる人数に応じて、それを取れ。』そこで、イスラエルの子らはそのとおりにした。ある者はたくさん、ある者は少しだけ集めた。彼らが、何オメルあるかを量ってみると、たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった。自分が食べる分にに応じて集めたのである。「聞く耳があるなら、聞きなさい」(出エジプト 16:15～18) 自分に応じた分を、分別するのが秤であり、御言葉を自分の聞く力に応じて聞くことが必要です。

## ■ 聞く耳

聞く力に応じて聞くために、聞く耳が整っている必要があります。『聞く耳があるなら、聞きなさい。』(マルコ 4:23) この「耳」は創世記にはじめに出てきます。『翌朝早く、アビメレクは彼のしもべをみな呼び寄せ、これらのことをすべて語り聞かせたので、人々は非常に恐れた。』(創世記 20:8)

アビメレクがアブラハムの妻と知らずに娶ろうとした時に神に告げられた声に聞き従った箇所です。自分が願ったとしても、どんなに自分にとって必要であっても、神様が言われることが自分の意と違うなら聞いて従うことを教えてくれる場面です。『聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。』(1サム 15:22) のです。

## ■ 奥義

『そこで、イエスは言われた。「あなたがたには、神の国の奥義が知らされているが、ほかの人たちには、すべてがたとえで言われるのです。』(マルコ 4:11) この奥義は創世記に出てきます。『シメオンとレビとは兄弟、彼らの剣は暴虐の道具。わがたましいよ。彼らの密儀に加わるな。わが心よ。彼らのつどいに連なるな。彼らは怒りにまかせて人を殺し、ほしいままに牛の足の筋を切ったから。』(創世記 49:5,6) ここに出て来る密儀が、私達の心で起こっていることです。聖書の答えはイエスカノーか 2 つに1つとされていました。人生において何かの決断をする時、なんとなく選ぶべきことが示されていることってないでしょうか。全くどうしていいかわからない時はそんなにはないように思います。決断できない時、わかってはいてもやりたくない理由があったり、現実的な問題がたくさん見えて、従いたくない心があるのではないのでしょうか。「祈って決めます」と言う人がいますが、答えを示されているのに、やりたくなくて自分が悩んでいるだけということがよくあります。険しい道から逃げ、楽な道を選ぶことが人の弱さです。正しいことを選べない時、悪い考えが出て来るものです。礼拝の中で、心の中に多いのは善か悪かと問われたら、全ての人が悪と答えました。私達の心の中には悪いことを思う暗闇がたくさんあるのです。すべきことは、心の中に起こる密儀に加わるのではなく、聞く耳をもって、心を変えたいと祈ることです。間違ったことを選んでしまいそうな弱さに負けずに祈るのです。

## ■ さいごに

私達の耳は多くのことを聞き、心の暗闇ではどうしても素直になれない頑なな部分があります。聞くか聞かないか、選ぶのは私達の決断が必要です。来週クリスマスを迎えます。私達の暗闇を犠牲になって取り去るために、生まれてくださったイエス様の降誕を心から祝う日となりますように。神様に聞き従い、私達の心がよい地に戻りますように。私達の人生が祝福に満ちたものになるように願っておられる神様の計画の中を生きることができるようになりますように。暗闇に覆われた心が光であふれるクリスマスとなりますように。目を覚まし、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。(黙示録 3:2) 光を受け取った一人一人が、光を届ける者となりますように。

(要約者:藤原 友規子)

(2022年12月18日)